

特別支援教育を柱に据えた学校づくり事業実績報告書（一部修正）

1 研究・実践の概要

(1) 特別支援教育に関する学校改善プランの作成

別紙にて、3校の学校改善プランを添付（省略）

(2) ユニバーサルデザインの授業づくり

(ア) ユニバーサルデザインの授業づくりに向けた環境整備や教材・授業の進め方の検討

従来、A中学校が取り組んできたユニバーサルデザインの視点を基にした授業づくりの校内研修に、2つの小学校が参画し、B小学校は国語科で『主体的な読みができる子の育成』に、C小学校は算数科で『自ら考え、学び合える子どもをめざして』のそれぞれの研究主題に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組んだ。その中で、授業展開のなかに、予想される支援の仕方や、一人一人の教育的ニーズに応じた学習指導の工夫（ユニバーサルポイント：UD）を取り入れた。

また、各校の校内研修に高知県教育委員会事務局特別支援教育課および中部教育事務所の指導主事を講師として招聘し、環境整備や教材の工夫に対する助言をいただいた。

(イ) 発達障害等のある児童生徒のアセスメントを生かした授業改善

各学校とも小学3年生から中学3年生までQ-Uアンケートを2回実施し、1回目の結果をもとに児童生徒が安心して学校生活を過ごすことが出来るように授業等の改善を図った。

さらに、A中学校では、Q-Uアンケートに加えて、子どもの強さと困難さを理解できるSDQアンケートを2回実施し、1人でも多くの生徒が学級生活満足群に当てはまるよう、対応してきたことが有効であったか検証してきた。その際に、高知大学と連携し分析や助言を得た結果、学級全体に伸びが見られ、Q-Uにおける要支援群生徒数が7名から1名に減少した。

(ウ) ユニバーサルデザインの授業づくり【県外講師の招聘による講演会】

今年度は、ユニバーサルデザインの授業づくりに先進的な取り組みをしている東京都日野市教育委員会と連携を図った。8月には3校全教職員参加の夏季合同研修にて、日野市全体で取り組んでいるユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりを紹介していただき、10月にはA中学校の中間発表にて、講話と講評をいただいた。

(エ) ユニバーサルデザインの公開授業研究会【中学校】

平成25年10月25日にA中学校にて、各学年1クラスが国語・数学・英語の授業で中間発表を行った。校外からも60名を超える参加があり、授業評価アンケートにも協力をいただいた。

(オ) ユニバーサルデザインの授業のまとめ

各学校で研究のまとめを作成し、南国市研究の紀要に実践したことを掲載した。

(3) 校種間の連携を強化する「引き継ぎシート」

(ア) 「引き継ぎシート」の意義、活用方法の周知

高知県版の「就学時引き継ぎシート」と、今年度から実施した小学校から中学校へ、中学校から高等学校への「支援引き継ぎシート」を、南国市保育・幼稚園長、小中学校長が集ま

る南国市所属長会で校種間での引継ぎの強化を説明し、全小中学校が職員会等で周知を図った。

(イ) 「引き継ぎシート」の作成

上記の高知県版をもとに、南国市版の「引き継ぎシート」を、各学校の管理職と特別支援教育コーディネーターを中心に協議をしながら作成した。協議では、引き継がれる学校が分かりやすい項目を再確認したり、重視して書く内容のスペースの幅などを話し合ったりした。

(ウ) 保育所、小学校、中学校の各校種間で、「引継ぎ会」の実施

10月の就学時健診の結果をもとに幼児・児童の観察を各学校が行い、2月の1日体験入学および連絡会では、幼児・児童の具体的な特性や支援の仕方について引継ぎ会を行っている。また、今年度は特別支援学級入級幼児を含み10名程度「就学時引き継ぎシート」を作成し、年度末までに保育・幼稚指導要録とともに各学校に引継ぎ、4月の入学式にスムーズに参加できるようにしている。

(エ) 「引き継ぎシート」の効果的な活用方法についてのまとめ

教育相談員派遣事業や就学時健診と関連させて保護者にも説明し、保護者と保育・幼稚園、小中学校が、保護者同意のもと作成をした。

さらには、A中ブロックにある2つの保育所でも、高知県教育委員会事務局特別支援教育課の協力を得て作成の仕方を学んだ。

(4) 推進のための会議等

(ア) 関係者連絡会

高知県教育委員会事務局特別支援教育課と南国市教育委員会事務局学校教育課が入って、下記の表の通り連絡会を実施した。

月	研修等内容	参加者
4月	第1回推進協議会【事業説明】	管理職、研究主任
5月	3校合同特別支援教育研修会	全教職員
7月	第2回推進協議会【進捗確認・引継ぎシート作成】	管理職、研究主任
8月	3校合同夏季研修会	全教職員
10月	A中学校中間発表会打合	管理職、研究主任
11月	第3回推進協議会【進捗確認・引継ぎシート確認】	管理職、研究主任 特別支援教育コーディネーター
2月	第4回推進協議会【進捗確認・次年度の確認】	管理職、研究主任

2 事業の成果と課題

(1) 研究・実践の成果

A中学校ブロックの3小中学校とも、ユニバーサルデザインの授業づくりについて、合同研修会や各校内研修を通して日常に生かされる実践がおこなわれ、1年目で環境づくりが浸透してきた。特に、A中学校では、全教職員がそれぞれの専門教科で、教科指導主事と特別支援教育指導主事の講師を交えて指導案作成・公開授業を行い、これまでに実施してきたユニバーサルデザインの視点を基にした授業づくりを深めることが出来た。また、平成25年10月に行った、中間発表での公開授業について、参加者アンケートから『生徒が「分かる」「できる」授業づくりのための工夫がで

きていたか?』の項目に、よく出来ている・出来ているとの回答割合は、85%にのぼり、平成25年度高知県学力定着状況調査においても、全ての教科で高知県平均を大きく上回った学年や、半分の教科で高知県平均を大きく上回った学年等が見られた。また、B小学校・C小学校も、前年度から取り組んでいた研究課題に、ユニバーサルデザインの視点を無理なく取り入れ、授業構成イメージに沿った授業づくりをするなど、配慮を要する子どもにもわかる授業づくりが行われた。

「引き継ぎシート」については、保育所・幼稚園から小学校へ3名、小学校から中学校へ4名、中学校から高等学校へ1名作成し送付した。

さらには、東京都日野市教育委員会と連携できたことは、特別支援教育を柱に据えた学校づくりを進めるうえで大きな成果があった。具体的には、特別支援教育総合コーディネーター宮崎氏を年間2回招聘することで、先進的な取組の事例紹介や取組の進捗確認が出来たこと。また、研究の核となる教職員が日野市等の授業を視察し、各教職員に伝達し研究の取組に生かしたことなどである。

(2) 今後の課題

今年度は、管理職が中心となって各校で取り組んできたが、研究の中心となって動いている研究主任や特別支援教育コーディネーターが合同で協議しあう場が、なかなか設定できなかった。2年次の研究発表やまとめに向けて、協議しあう場の確保が必要である。

また、日々の授業の中で、授業構成イメージや「めあて」の提示などは各学校とも共通理解でき整ってきたが、授業の最後の「まとめ」をする場面で、児童生徒から出た言葉で「まとめ」をするまでには至っていない。さらには、児童生徒のつまずきを予想して授業改善を行って学力向上に取り組んできたが、学力定着状況調査等からは、同集団で比較できるデータがないため、はっきりとした数値で学力が向上したとまでは言えないので、3校が合同で協議しあう場の確保が必要である。

引き継ぎシートについては、年度末の校種間をまたいだ連絡会で、時間の制約から引き継ぎシートの部分的な話し合いにとどまった。今後は連絡会での効果的な活用を検討するとともに、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成、活用、及び実際の指導・支援につなげていきたい。

今年度は、全ての生徒に対して効果的な学力向上支援として取り組んできたが、これを来年度も継続しながら、LD等のさらに学習支援の必要な児童生徒に対して、補足的な指導の研究へも取り組んでいきたい。